


愛知県立古知野高等学校(全日制)

派遣日時	令和7年11月6日(木) 8時45分～9時45分
対象者	1年生(166名)・教職員(12名)
外部講師	江南厚生病院 患者相談支援課係長・看護師 宇根底亜希子
設定場面	保健講話
テーマ	がんについて学ぼう!
ねらい	授業では十分に伝えられない、緩和ケアや共生について学ぶ機会を作る。 自分ががんになった時や、周りの人ががんになった時、どのように周囲の人と関わるとよいか考えるきっかけを作る。
実施内容	<p>【事前の準備・打ち合わせ等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健の授業であまり扱えていない、緩和ケアや共生について話して欲しい。 ・がん患者やその家族の心の変化について伝えて欲しい。 <p>配慮する生徒がいるか保護者宛に文書を配布する。</p> <p>【当日の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんについての基礎知識、緩和ケアについて、がんの理解と共生(がん患者や家族の心の変化について・がんを体験して感じたこと・伝えたいこと)
成果・感想	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の復習と不足事項の補足ができた。 ・講師の方が担当された患者様のお話を伺うことができ、がんについての理解を深めることができた。 <p>【今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケアや共生について、教員では十分話せない内容であるので、専門の方からお話を伺う機会を今後も持ちたい。 <p>【感想・写真等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験に基づいたお話は聞く機会がないので、がんに対する考え方を深めるきっかけになった。 <p>(生徒の感想)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんについての話を聞いて、がんは早期発見をすれば治る確率が高いことや、がん検診などで見つけることが出来ることがよく分かりました。がんと聞くと、死を連想していましたが、今回のお話を聞いて、がんは治すことの出来る病気であることが分かりました。私は、緩和ケアと聞くと、もう亡くなってしまう人が行くところだと思っていましたが、今回のお話を聞き、痛みを和らげたり、少しでも長く自分らしく生きることができたりする場所だということが分かりました。がんは、誰にでもなることがある病気ですが、予防をし、少しでもがんになるリスクが下げることが出来ることがわかったので、今から食生活を見直したいです。また、自分の家族や親戚ががんにならないように、今回学んだことを話したいと思います。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>

愛知県立小牧高等学校(定時制)

派遣日時	令和8年1月8日(木) 19時05分～20時05分
対象者	全学年(98名)・教職員(7名)
外部講師	NPO法人ミーネット・加藤 美津子
設定場面	総合的な学習の時間
テーマ	「私のがん体験」
ねらい	<p>1. がん共生社会の一員として、周囲へのサポート・社会資源の活用について正しい知識を身につける。</p> <p>2. がんを身近なものとして捉え、生活習慣の振り返りや予防のためにできること、これからの生き方について考える。</p>
実施内容	<p>【事前の準備・打ち合わせ等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・打ち合わせでは、地域社会とのつながり・社会資源・家族(友人)としてのサポートをキーワードに体験に基づいた話となるよう目的を伝えた。 ・11月20日に事前アンケートを全校生徒対象に行った。 ・事前アンケート集計結果を、講話の参考資料として12月上旬に講師へ送付する。 ・事前アンケート結果の活用方法など、講話の進め方について打ち合わせを行った。 ・講話のパワポデータを事務局からメールで受け取り、当日はそのデータを使用した。 ・がん教育を実施する上で、配慮の必要がある生徒への声かけを行った。 ・講話後のお礼のことばを代表生徒に依頼する。 <p>【当日の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師には20分前にご来校いただき、会場・講話の流れ(時間)・パソコンの動作などの確認作業を行った。 ・19:05に養護教諭から講師紹介、講話の最後に質疑応答の時間を設けた。 ・講話内容には、事前アンケートで誤認識がありそうな項目についてクイズを取り入れていただいた。 ・生徒は講話後教室へ戻り、感想文の記入および事後アンケートを実施した。
成果・感想	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校は外国にルーツをもつ生徒も多く在籍している。そのためアンケートの日本語が難しいと感じ、内容を理解できていない生徒も多数みられるが、【がんの学習に対する重要性や大切さ】への意識は18%上昇した。 ・がんの知識面では、講話前【日本人の死因第2位】を「正しい」と回答した者が半数以上みられたが、講話でクイズ項目に取り入れていただいたことで逆転した。また【がんの治療法は医師が決めるもの】は「どちらかといえばそう思わない・思わない」が7%増加したが、まだまだ医師が決定すると思っている生徒が多いことがわかった。 ・【体の調子が良い場合は定期的に検査を受けなくても良い】が82%と非常に高かった。講話後は6%程度減少したが、今は健康な生徒が多いため、自分事として考えると「必要ない」と感じる生徒が多かったのではないかとと思われる。将来の自分の事として考えさせるように今後は取り組んでいきたい。 <p>【今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講話内容や感想をまとめ、「保健だより」で改めて啓発・周知する。 ・在学4年間でがんについての知識を定着させられるよう、様々な角度から学べるような講話の機会を今後も企画していく。 <p>【感想・写真等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お話を聞いてがんの予防は若いうちからやっておいた方が良いなと思いました。 ・がんになると場合によっては亡くなったり、人生の大半を病院で過ごすしなければならなかったりしてしまうので、そうなる前に少しでもがんのリスクを下げるために今から予防をしていこうと思った。 ・母ががんと診断されています。今は悪化しないようしっかりと食事、軽い運動、家族の手助けがありながら元気に過ごしています。私自身もがんになる可能性はあるので、検診できる年齢になれば、がん検診をしようと思います。検診だけでなく日々の生活習慣からも気をつけようと思いました。 ・前向きに何かできない時は我慢しないで助けを求めることが大事だと思いました。

- ・自分だけでなく周りの人ががんになったとき、当たり前でできていたことができなくなってしまうことに気づき、生活面も心の面も支えていける人になれたらいいなと思いました。
- ・病院の看護補助の仕事をしています。よくがん患者さんを見かけるのですが、やはり簡単に治る病気ではないんだと日々感じています。早期発見も大事だし、生活習慣を見直すことも大事だと思います。
- ・心などをサポートするピアサポーターがいるということを知り、大事な活動をしている人だなと感じました。ピアサポーターは他にどんなことをしているのか気になりました。
- ・両親2人ともがんになって亡くなったので心に響きました。もっとこれから色々な場所に行きたいので、自分はがんにならないように生活習慣をしっかりしたいです。

